

今週（7月26日から7月30日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積みの前半で4連休明けということもあり調達意欲は弱く、日々レートを引き下げる動きが加速した。26日の調達側は地銀・証券業態を中心に▲0.05～▲0.015%、都銀・信託業態の調達レートは▲0.05～▲0.045%のスタートとなった。27日以降もギブン地合いは続き、調達側は邦銀を中心に▲0.06～▲0.015%、28日は▲0.065～▲0.015%、29日は▲0.07～▲0.015%のレンジで出合いが見られた。これを受け、無担保コールO/N物加重平均レートは徐々に低下していった。30日は月末要因から調達サイドの減少が見られたものの、週末3日積み上げがレート上昇要因となっているため地合いにさほど大きな変化は見られなかった。ターム物に関しては、1M以内のショートターム物を中心に▲0.025～▲0.02%近辺の水準で引き合いが散見された。日銀当座預金残高は、週を通して530兆円台で推移した。今週の需給は、28日は財政等要因から不足日となったものの、全体的には余剰日が続いた。

26日には新型コロナ対応金融支援オペが6M物でオフアーされ、132,212億円の貸付が行われた（期落ちは118,184億円）。残高は27日時点で707,936億円となる見込み。

●レボ市場

今週のO/N GCIは、▲0.09～▲0.075%のレンジでの取引となった。出合いは投資家の資金調達中心で、レートは安定して推移した。

SCはカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は動意に乏しく閑散なマーケットとなる中、全ゾーンにおいて前週比横ばい圏で推移する展開となった。

27日に行われた短国買入オペは10,000億円と前回からオフアー額が減額され、やや甘い結果となった。

30日に実施された3M物の入札は無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

●CP市場

今週は月末・月初の発行にあたり、幅広い業態から発行が見られる活況なマーケットとなった。良好な調達環境から発行需要は旺盛で、月末市場残高は25兆円程度と月末としては今年度最高水準となる見込み。発行レートは引き続きマイナス圏での発行が中心となっており、一部の発行残高が少ない銘柄では目線を切り下げる動きも見られた。

27日にはCP等買入オペが5,000億円オフアーされ、按分落札レート▲0.013%、平均落札レート▲0.009%といずれも前回比で低下する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
7/26 (月)	27,833.29	0.010	110.40	△ 0.038	△ 0.090	5,339,800
7/27 (火)	27,970.22	0.015	110.25	△ 0.039	△ 0.091	5,358,300
7/28 (水)	27,581.66	0.010	109.86	△ 0.041	△ 0.088	5,360,300
7/29 (木)	27,782.42	0.015	109.75	△ 0.043	△ 0.087	5,372,300
7/30 (金)	27,283.59	0.015	109.50	△ 0.044	△ 0.085	5,388,800

来週（8月2日から8月6日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/2 (月)	7月の消費動向調査(内閣府 14:00)				6月の米建設支出 7月のISM 製造業景況指数
8/3 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 7月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 7月のマネタリーベース(日銀 8:50)	10Y 26,000億円 8/4発行	交付税借入 11,000億円 8/13借入		6月の米製造業新規受注・出荷・在庫
8/4 (水)	8月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				7月のISM 非製造業景況指数
8/5 (木)		TB6M 34,000億円 8/10発行	10Y物価連動 2,000億円 8/6発行		英中銀MPC結果発表 6月の米貿易収支
8/6 (金)	6月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 6月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 7月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 6月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 50,000億円 8/10発行	交付税借入 11,000億円 8/20借入		6月の米消費者信用残高 6月の米卸売売上高 7月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/2 (月)	800	▲ 14,800	▲ 14,000	CP買入	▲ 200		▲ 200	▲ 14,200	TB3M発行▲53000償還61200 2Y発行▲30000償還12400
8/3 (火)	1,000	▲ 8,000	▲ 7,000				0	▲ 7,000	
8/4 (水)	0	▲ 87,000	▲ 87,000	全店共通	▲ 4,000		▲ 4,000	▲ 91,000	年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 申告所得税揚げ 10Y発行▲26000
8/5 (木)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
8/6 (金)	0	2,000	2,000				0	2,000	10Y物価連動発行▲2000 交付税借入▲11000期日10000
週間合計	800	▲ 108,800	▲ 108,000	—	▲ 4,200	0	▲ 4,200	▲ 112,200	

8/2は日銀予想、8/3以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期間後半に入り、調達を控えていた先が少しずつ戻ってくることも予想され、その動向が注目される。レポ市場は、GC T/Nは、横ばい圏で▲0.09～▲0.075%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、5日に6M物、6日に3M物の入札が実施予定となっており、発行予定額は50,000億円と、30日の3M入札（53,000億円）から3,000億円減額となる。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、3日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、8月に入り、事業法人の発行動向や市場残高の推移が注目される。

主要なイベントは、海外では5日に英中銀MPC結果発表、6日に7月の米雇用統計が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。